

横浜港護岸復旧工法検討会の設置趣旨

1. 背景

9月9日未明に東京湾を通過した台風15号では、湾内各地で記録的な暴風・波浪を観測するとともに、横浜港の金沢区福浦・幸浦、本牧ふ頭D突堤などにおいては、想定以上の高波による護岸上部工（パラペット）の損壊や背後地の浸水など甚大な被害をもたらした。

2. 検討会の設置趣旨

横浜市港湾局では、高波による広範囲にわたる護岸上部工の損壊を踏まえ、背後を利用する事業所や物流施設等を守るため、大型土嚢を設置する応急処置を行っているが、同様の被害の再発防止に向け、今後想定される最大クラスの高波にも耐えうる構造で本復旧を早急に行わなければならない。

そのため、関東地方整備局が開催する東京湾における高波対策検討委員会の検討内容を踏まえ、護岸復旧の方針や復旧工法の検討を行う必要がある。

以上より、学識経験者及び行政関係者からなる「横浜港護岸復旧工法検討会」を設置する。

3. 検討スケジュール

【第1回】10月8日（火）

・台風15号による発生波浪、被災メカニズムなど

※東京湾における高波対策検討委員会の検討結果を踏まえて、復旧断面及び復旧工法の検討を行い、年内を目途に方向性を定める予定。